

“文化人、松平忠輝の足跡学ぶ

湖南村誌講座 遺品の茶壺など鑑賞



松平忠輝の遺品を鑑賞する参加者たち

郷土史を楽しみながら紐解く湖南村誌講座の第20回「松平忠輝公と田辺郷に伝わる縁の遺品紹介」は20日、諏訪市湖南公民館で開いた。市内から60〜70代を中心に約20人が参加。湖南村誌管理委員会の河西忠雄さん(79)を講師に徳川家康の六男、松平忠輝(1592〜1683年)について学びを深めたほか、田辺地区に伝わるゆかりの遺品として茶壺、神鏡、短冊などを鑑賞した。

河西さんは忠輝の生涯や人となり、配流先となった諏訪藩での暮らしなどについて紹介。遺品の美術的な価値の高さから、忠輝の文化人としての側面を強調し、「藩主や家臣を通じ、彼が諏訪地域の文化に与えた影響は少なくない」と説明した。

講座に参加した藤森憲一さん(75)＝

湖南大熊＝は「村誌で写真を見たことはあったが、実物を鑑賞するのは初めて。貴重な経験になった」と満足そうに話していた。